

秋田県内中小企業景況調査結果

(2024年10~12月期)

秋田県商工会議所連合会

〈内容〉

- ・ 全産業の項目別DI値
- ・ 産業別DI値
- ・ 地域別DI値
- ・ 産業別設備投資
- ・ 地域別設備投資
- ・ 経営上の問題点
- ・ 付帯調査
- ・ 総括表

※ 景気判断・DI値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。
(▲:マイナス)

〈参考〉県内景況調査に対する各企業のコメント 一覧

〈回収状況〉

業種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	40	31 (77.5%)
製造業	40	33 (82.5%)
卸売業	40	31 (77.5%)
小売業	40	35 (87.5%)
サービス業	40	36 (90.0%)
合計	200	166 (83.0%)

地域	対象企業数	有効回答企業数
県北	50	44 (88.0%)
県央	75	63 (84.0%)
県南	75	59 (78.7%)

I. 全産業の項目別DI値

1. 業況

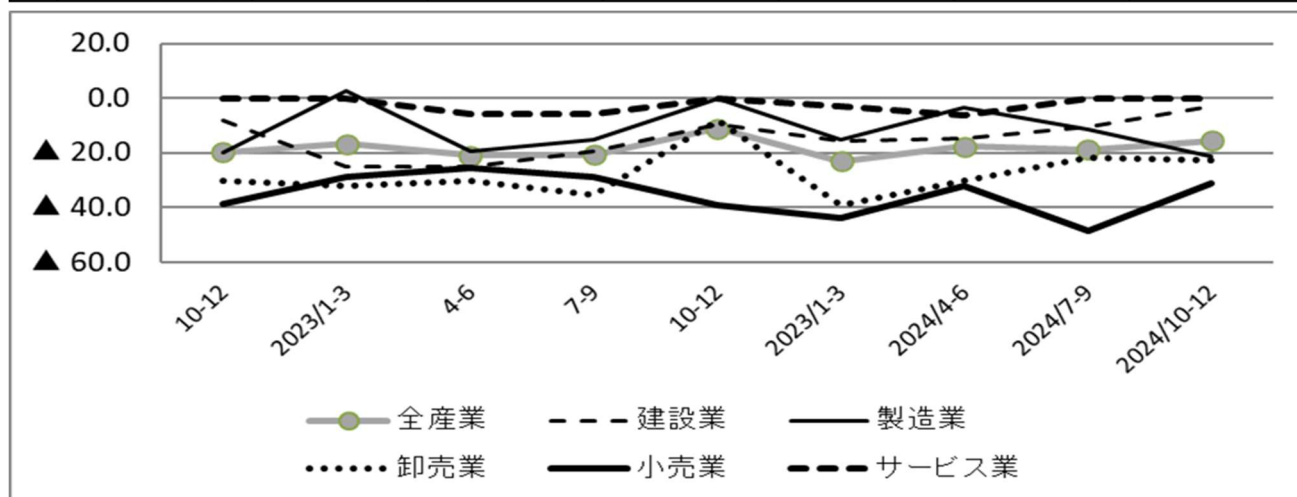
今期（10～12月）の業況DI値は、全産業で▲15.6と前期と比べ改善した。

産業別では、製造業が悪化、卸売業もわずかながら悪化した一方、小売業は大幅な改善、建設業も改善した。サービス業は横ばいであった。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲9.7と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、サービス業と建設業が悪化を見通す一方、小売業と製造業は大幅な改善、卸売業も改善を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 18.8	▲ 16.3	▲ 15.6	3.2	▲ 9.7	5.9
建設業	▲ 10.7	▲ 14.3	▲ 3.2	7.5	▲ 6.4	-3.2
製造業	▲ 11.4	▲ 5.8	▲ 21.2	-9.8	▲ 6.1	15.1
卸売業	▲ 21.8	▲ 21.8	▲ 22.6	-0.8	▲ 16.1	6.5
小売業	▲ 48.5	▲ 36.4	▲ 31.4	17.1	▲ 11.4	20.0
サービス業	0.0	▲ 3.1	0.0	0.0	▲ 8.4	-8.4



2. 売上額・完成工事額

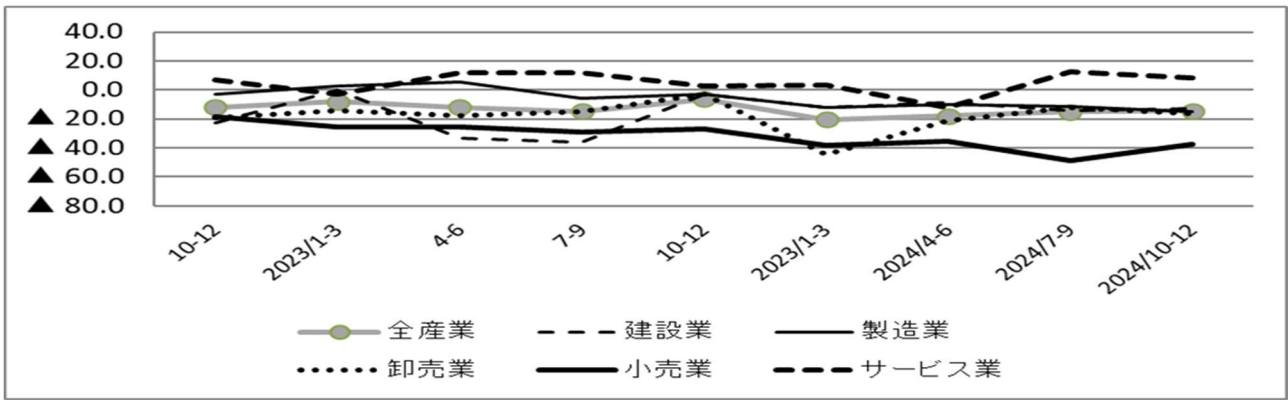
今期（10～12月）の売上額・完成工事額DI値は、全産業で▲14.4と前期と比べわずかながら改善した。

産業別では、サービス業、製造業、卸売業が悪化した一方、小売業は改善、建設業もわずかながら改善した。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲12.6と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、サービス業が悪化を見通す一方、小売業、建設業、製造業は改善を見通している。卸売業は横ばいを見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 15.0	▲ 10.7	▲ 14.4	0.6	▲ 12.6	1.8
建設業	▲ 14.3	▲ 17.9	▲ 12.9	1.4	▲ 9.7	3.2
製造業	▲ 11.5	2.9	▲ 15.2	-3.7	▲ 12.1	3.1
卸売業	▲ 12.5	▲ 6.3	▲ 16.1	-3.6	▲ 16.1	0.0
小売業	▲ 48.5	▲ 30.3	▲ 37.2	11.3	▲ 28.5	8.7
サービス業	12.5	▲ 3.2	8.3	-4.2	2.8	-5.5



3. 資金繰り

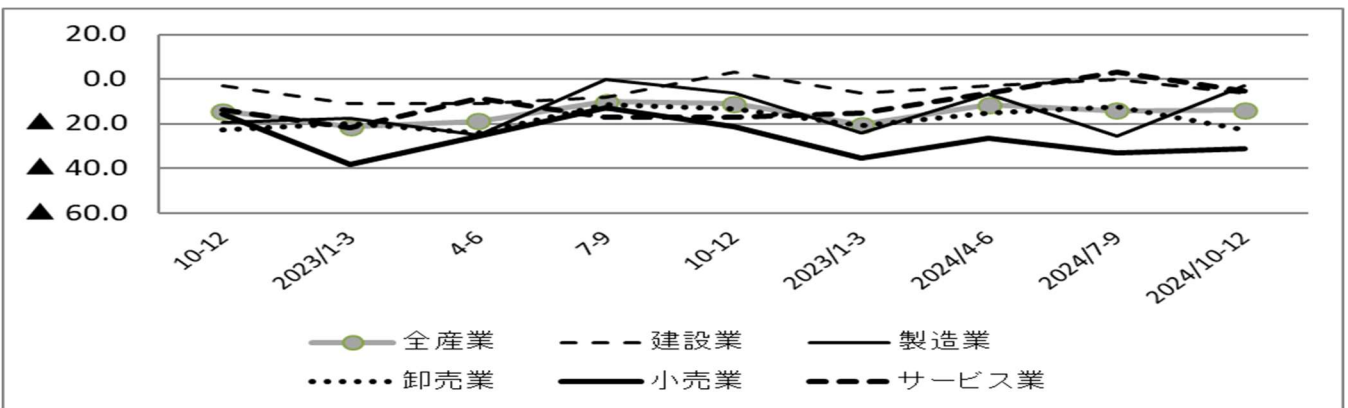
今期（10～12月）の資金繰りDI値は、全産業で▲13.9と前期と比べわずかながら改善した。

産業別では、卸売業、サービス業、建設業が悪化した一方、製造業は大幅な改善、小売業もわずかながら改善した。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲8.5と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、サービス業がわずかながら悪化を見通す一方、小売業、卸売業、建設業は改善を見通している。製造業は横ばいを見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 14.3	▲ 13.1	▲ 13.9	0.4	▲ 8.5	5.4
建設業	0.0	▲ 3.5	▲ 6.4	-6.4	0.0	6.4
製造業	▲ 25.7	▲ 22.8	▲ 3.0	22.7	▲ 3.0	0.0
卸売業	▲ 12.5	▲ 9.4	▲ 22.6	-10.1	▲ 12.9	9.7
小売業	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 31.4	1.9	▲ 17.1	14.3
サービス業	3.1	0.0	▲ 5.6	-8.7	▲ 8.3	-2.7



4. 受注残（未消化工事高）

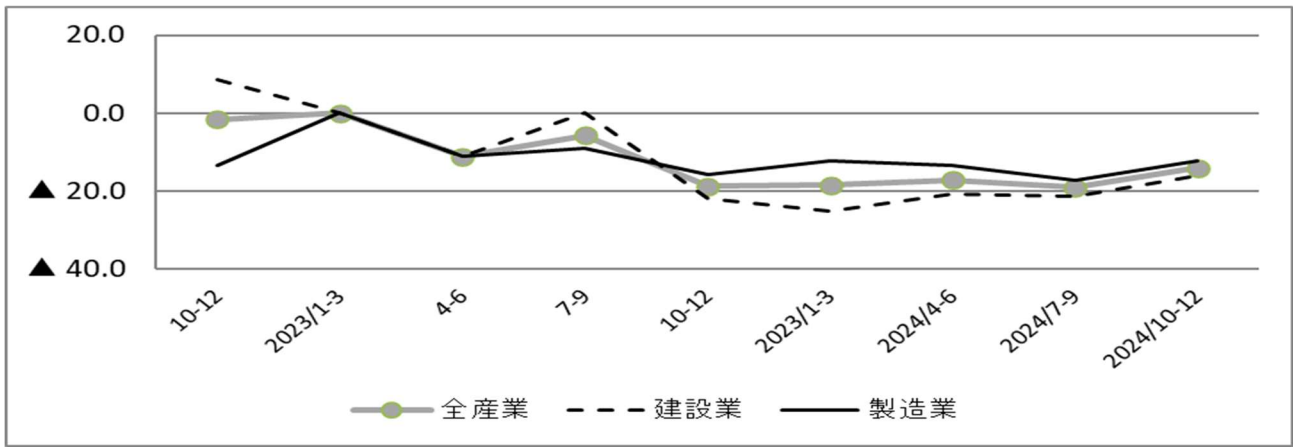
今期（10～12月）の受注残DI値は、全産業で▲14.0と前期と比べ改善した。

産業別では、建設業、製造業ともに改善した。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲9.4と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、建設業が改善、製造業もわずかながら改善を見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 19.1	▲ 16.1	▲ 14.0	5.1	▲ 9.4	4.6
建設業	▲ 21.4	▲ 14.8	▲ 16.1	5.3	▲ 9.7	6.4
製造業	▲ 17.1	▲ 17.1	▲ 12.1	5.0	▲ 9.1	3.0



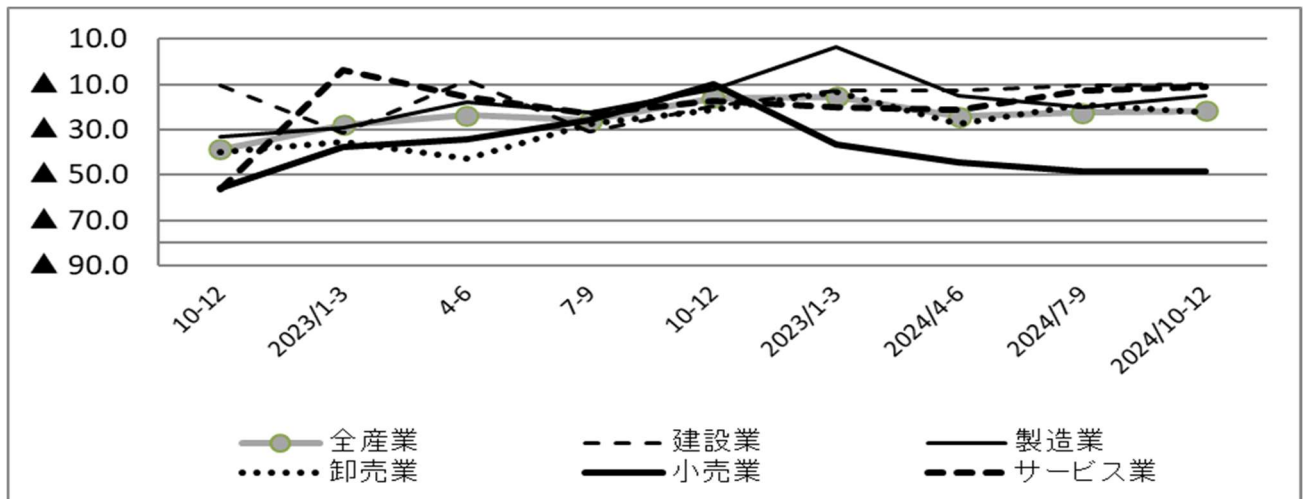
5. 採算（経常利益）

今期（10～12月）の採算DI値は、全産業で▲21.6と前期と比べわずかながら改善した。産業別では、卸売業が悪化した一方、製造業は改善、サービス業と建設業もわずかながら改善した。小売業は横ばいであった。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲16.3と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、建設業が悪化を見通す一方、小売業は大幅な改善、製造業も改善、サービス業もわずかながら改善を見通している。卸売業は横ばいを見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通(10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 22.5	▲ 19.4	▲ 21.6	0.9	▲ 16.3	5.3
建設業	▲ 10.7	▲ 7.1	▲ 9.6	1.1	▲ 22.6	-13.0
製造業	▲ 20.0	▲ 17.2	▲ 15.2	4.8	▲ 6.0	9.2
卸売業	▲ 18.8	▲ 12.5	▲ 22.5	-3.7	▲ 22.5	0.0
小売業	▲ 48.5	▲ 36.4	▲ 48.5	0.0	▲ 22.9	25.6
サービス業	▲ 12.5	▲ 21.8	▲ 11.2	1.3	▲ 8.4	2.8



6. 従業員（含む臨時）

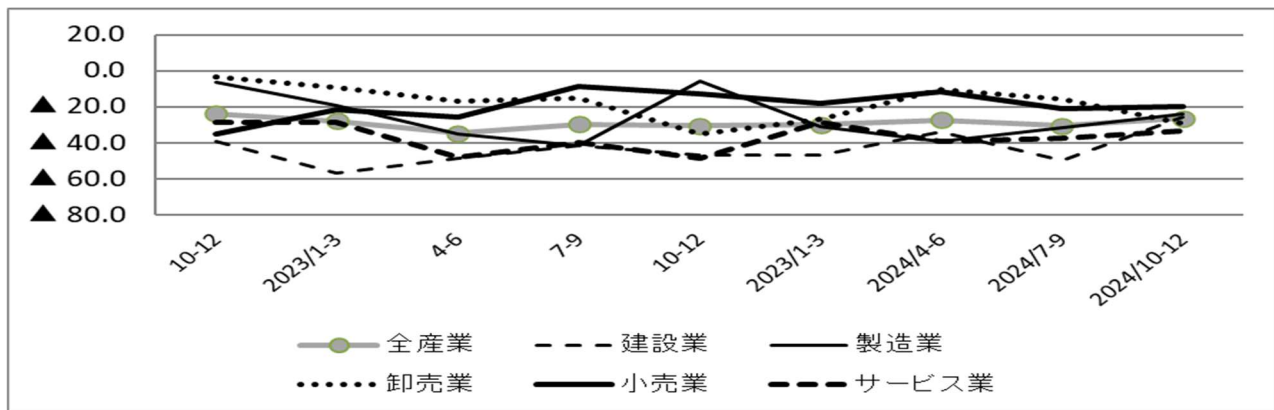
今期（10～12月）の従業員DI値は、全産業で▲26.5と前期と比べ不足感を縮小した。

産業別では、卸売業が不足感を拡大した一方、建設業は不足感を大幅に縮小、製造業、サービス業も不足感を縮小、小売業もわずかながら不足感を縮小した。

来期の見通し（1～3月）は、全産業で▲25.9と今期と比べわずかながら不足感の縮小を見通している。

産業別では、卸売業は不足感の拡大を見通す一方、小売業は不足感の縮小を見通している。建設業、製造業、サービス業は横ばいを見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 30.6	▲ 29.4	▲ 26.5	4.1	▲ 25.9	0.6
建設業	▲ 50.0	▲ 42.8	▲ 25.8	24.2	▲ 25.8	0.0
製造業	▲ 31.4	▲ 34.2	▲ 24.3	7.1	▲ 24.3	0.0
卸売業	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 29.1	-13.5	▲ 32.3	-3.2
小売業	▲ 21.2	▲ 12.2	▲ 20.0	1.2	▲ 14.3	5.7
サービス業	▲ 37.5	▲ 34.3	▲ 33.3	4.2	▲ 33.3	0.0



II. 産業別DI値

1. 建設業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲3.2と前期と比べ改善した。

項目別では、資金繰りが悪化した一方、受注残は改善、完成工事額と採算もわずかながら改善した。従業員は大幅に不足感を縮小した。

企業からは、「元請けの工事単価上昇により、完成工事高も増加した」【一般電気工事業】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲6.4と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、採算が悪化を見通す一方、資金繰り、受注残、完成工事額は改善を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは「工事が予想以上に遅れ、それに伴って経費がかかり赤字が予想される」【土木工事業】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 10.7	▲ 14.3	▲ 3.2	7.5	▲ 6.4	-3.2
完成工事額	▲ 14.3	▲ 17.9	▲ 12.9	1.4	▲ 9.7	3.2
資金繰り	0.0	▲ 3.5	▲ 6.4	-6.4	0.0	6.4
受注残	▲ 21.4	▲ 14.8	▲ 16.1	5.3	▲ 9.7	6.4
採算(経常利益)	▲ 10.7	▲ 7.1	▲ 9.6	1.1	▲ 22.6	-13.0
従業員(含む臨時)	▲ 50.0	▲ 42.8	▲ 25.8	24.2	▲ 25.8	0.0

2. 製造業

今期（10～12月）のDI値は、業況が▲21.2と前期と比べ悪化した。

項目別では、売上額が悪化した一方、資金繰りは大幅な改善、受注残と採算も改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「工程が遅れていた現場が本格稼働し、納入数量増加に伴い、売上及び採算が増加傾向となる」【コンクリート製造】とのコメントがあった。

来期の見通し（1～3月）は、業況が▲6.1と今期と比べ大幅な改善を見通している。

項目別では、採算と売上額は改善、受注残はわずかながら改善を見通している。資金繰りと従業員の不足感は横ばいを見通している。

企業からは、「冬期間に入り、休業となる現場もあり、出荷量は減少するが、前期と比べると増収・増益となる見込み」【コンクリート製造】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月)		(C)-(A)	(D)	来期見通(1~3月)
		(B)				今期比 (D)-(C)
業況	▲ 11.4	▲ 5.8	▲ 21.2	-9.8	▲ 6.1	15.1
売上額	▲ 11.5	2.9	▲ 15.2	-3.7	▲ 12.1	3.1
資金繰り	▲ 25.7	▲ 22.8	▲ 3.0	22.7	▲ 3.0	0.0
受注残	▲ 17.1	▲ 17.1	▲ 12.1	5.0	▲ 9.1	3.0
採算(経常利益)	▲ 20.0	▲ 17.2	▲ 15.2	4.8	▲ 6.0	9.2
従業員(含む臨時)	▲ 31.4	▲ 34.2	▲ 24.3	7.1	▲ 24.3	0.0

3. 卸売業

今期（10～12月）のDI値は、業況が▲22.6と前期と比べわずかながら悪化した。

項目別では、資金繰り、採算、売上額で悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「市況の低迷が大きい」【雑貨卸売】とのコメントがあった。

来期の見通し（1～3月）は、業況が▲16.1と今期と改善を見通している。

項目別では、資金繰りが改善を見通している一方、売上額と採算は横ばいを見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「売上となる冬物の減少、働き方改革による来客数減少が見られる」【工具・金具】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月)		(C)-(A)	(D)	来期見通(1~3月)
		(B)				今期比 (D)-(C)
業況	▲ 21.8	▲ 21.8	▲ 22.6	-0.8	▲ 16.1	6.5
売上額	▲ 12.5	▲ 6.3	▲ 16.1	-3.6	▲ 16.1	0.0
資金繰り	▲ 12.5	▲ 9.4	▲ 22.6	-10.1	▲ 12.9	9.7
採算(経常利益)	▲ 18.8	▲ 12.5	▲ 22.5	-3.7	▲ 22.5	0.0
従業員(含む臨時)	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 29.1	-13.5	▲ 32.3	-3.2

4. 小売業

今期（10～12月）のDI値は、業況が▲31.4と前期と比べ大幅に改善した。

項目別では、売上額が改善、資金繰りもわずかながら改善した。採算は横ばいであった。従業員は不足感をわずかながら縮小した。

企業からは、「気温がなかなか下がらず、冬物の売れ始めが遅かった」【衣類販売】とのコメントがあった。

来期の見通し（1～3月）は、業況が▲11.4と今期と比べ大幅な改善を見通している。

項目別では、採算、資金繰り、売上額で改善を見通しており、特に採算が25.6ポイントと大幅な改善を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「来期は繁忙期となるが、値上げの影響がどの程度出てくるか読めない状況である」【菓子製造小売】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 48.5	▲ 36.4	▲ 31.4	17.1	▲ 11.4	20.0
売上額	▲ 48.5	▲ 30.3	▲ 37.2	11.3	▲ 28.5	8.7
資金繰り	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 31.4	1.9	▲ 17.1	14.3
採算(経常利益)	▲ 48.5	▲ 36.4	▲ 48.5	0.0	▲ 22.9	25.6
従業員(含む臨時)	▲ 21.2	▲ 12.2	▲ 20.0	1.2	▲ 14.3	5.7

5. サービス業

今期(10~12月)のDI値は、業況が0.0と前期と比べ横ばいであった。

項目別では、資金繰りと売上額が悪化した一方、採算はわずかながら改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは「売上額は前年比ほぼ同額であったが、材料費や燃料費の高騰で利益率は悪化、人手不足で人件費が下がり採算は同額くらい。一人当たりの労働負担が増えている」【食堂】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲8.4と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、売上額が悪化、資金繰りもわずかながら悪化を見通している一方、採算はわずかながら改善を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「賃金、物価上昇分を価格に反映しきれていない状況」【ホテル業】とのコメントがあった。

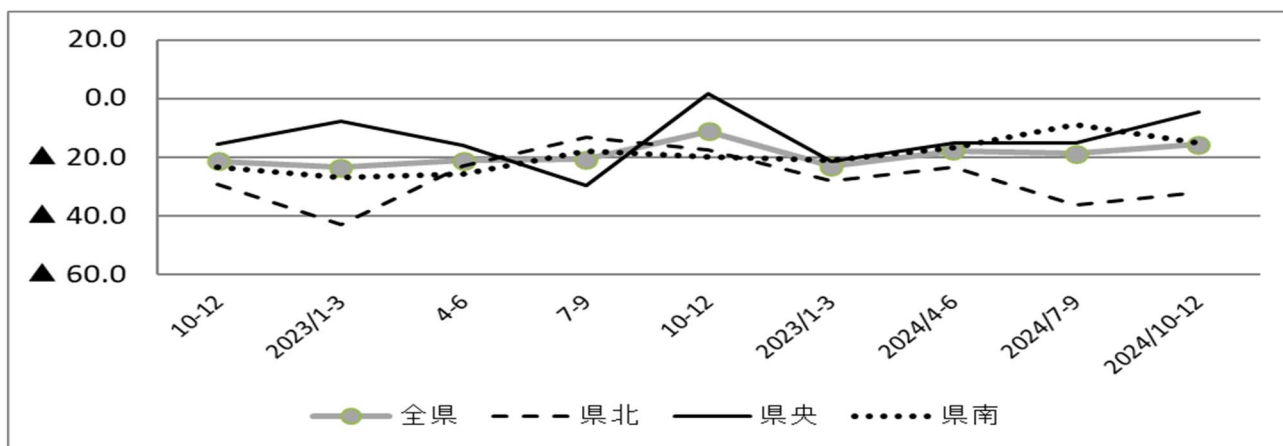
	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	0.0	▲ 3.1	0.0	0.0	▲ 8.4	-8.4
売上額	12.5	▲ 3.2	8.3	-4.2	2.8	-5.5
資金繰り	3.1	0.0	▲ 5.6	-8.7	▲ 8.3	-2.7
採算(経常利益)	▲ 12.5	▲ 21.8	▲ 11.2	1.3	▲ 8.4	2.8
従業員(含む臨時)	▲ 37.5	▲ 34.3	▲ 33.3	4.2	▲ 33.3	0.0

Ⅲ. 地域別DI値

1. 業況

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県南が悪化した一方、県央と県北は改善した。
 来期の見通し（1～3月）は、今期と比べ県央がわずかながら悪化を見通す一方、県北は大幅な改善、県南も改善を見通している。

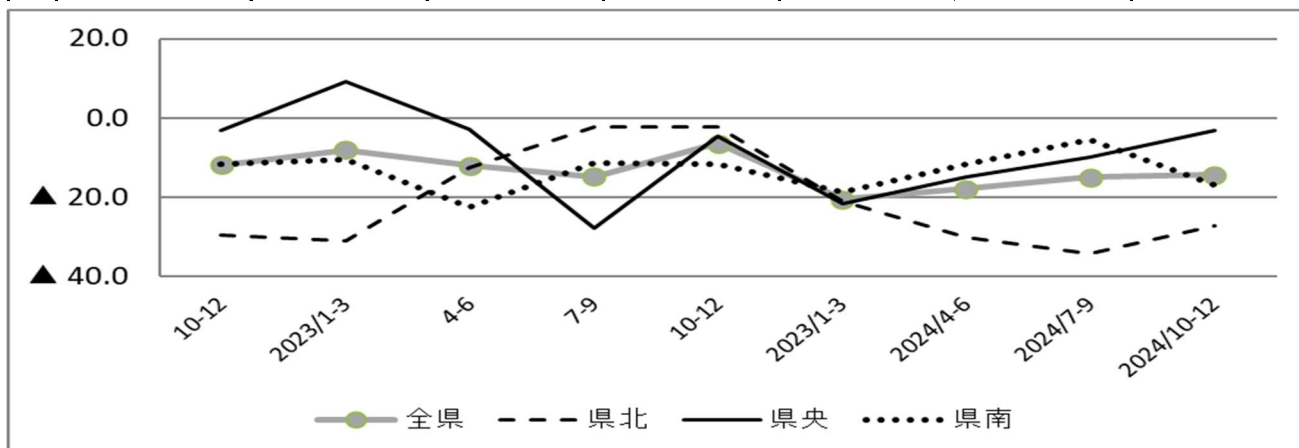
	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 18.8	▲ 16.3	▲ 15.6	3.2	▲ 9.7	5.9
県 北	▲ 36.4	▲ 15.9	▲ 31.9	4.5	▲ 13.7	18.2
県 央	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 4.8	10.2	▲ 6.3	-1.5
県 南	▲ 8.9	▲ 12.5	▲ 15.2	-6.3	▲ 10.1	5.1



2. 売上額・完成工事額

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県南が悪化した一方、県北と県央は改善した。
 来期の見通し（1～3月）は、今期と比べ県央が悪化を見通す一方、県北が改善、県南もわずかながら改善を見通している。

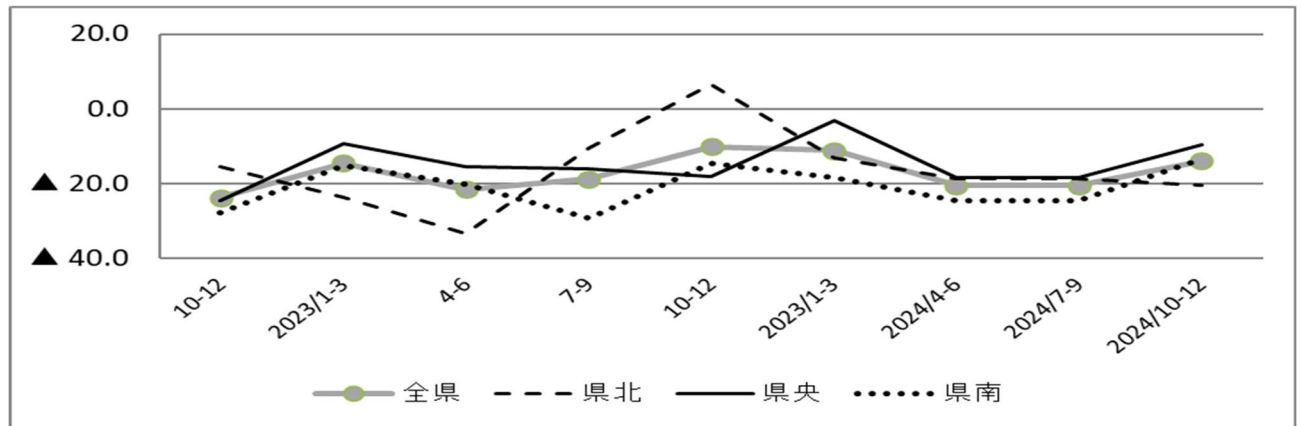
	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 15.0	▲ 10.7	▲ 14.4	0.6	▲ 12.6	1.8
県 北	▲ 34.1	▲ 11.3	▲ 27.2	6.9	▲ 15.9	11.3
県 央	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 3.2	6.8	▲ 8.0	-4.8
県 南	▲ 5.4	▲ 5.4	▲ 17.0	-11.6	▲ 15.2	1.8



3. 資金繰り

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県南が悪化した一方、県央と県北は改善した。
来期の見通し（1～3月）は、全地域で改善を見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 14.3	▲ 13.1	▲ 13.9	0.4	▲ 8.5	5.4
県 北	▲ 22.7	▲ 18.2	▲ 20.4	2.3	▲ 13.6	6.8
県 央	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 9.6	5.4	▲ 3.2	6.4
県 南	▲ 7.2	▲ 7.1	▲ 13.5	-6.3	▲ 10.2	3.3

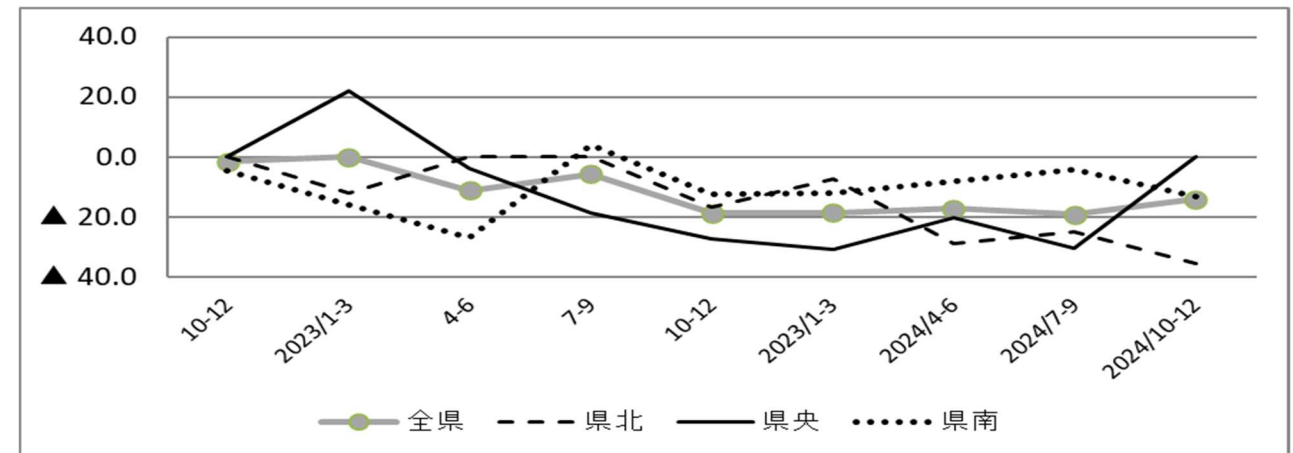


4. 受注残（未消化工事高）

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県北と県南が悪化した一方、県央は大幅に改善した。

来期の見通し（1～3月）は、今期と比べ県北と県央は改善を見通している。県南は横ばいを見通している。

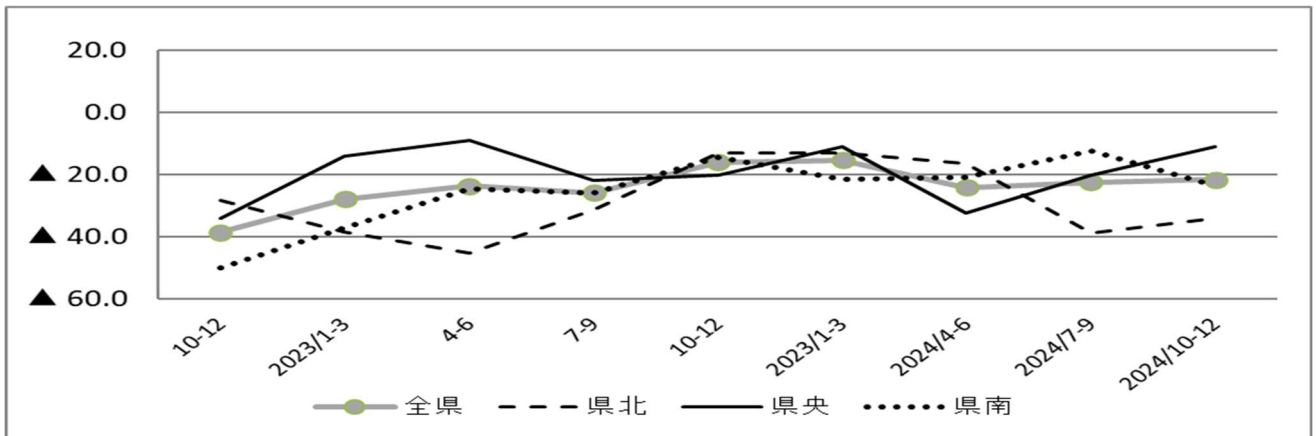
	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 19.1	▲ 16.1	▲ 14.0	5.1	▲ 9.4	4.6
県 北	▲ 25.0	▲ 6.7	▲ 35.3	-10.3	▲ 23.5	11.8
県 央	▲ 30.4	▲ 21.8	0.0	30.4	4.1	4.1
県 南	▲ 4.1	▲ 16.7	▲ 13.1	-9.0	▲ 13.1	0.0



5. 採算（経常利益）

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県南が悪化した一方、県央と県北は改善した。
 来期の見通し（1～3月）は、今期と比べ県央は悪化を見通す一方、県北は大幅な改善、
県南は横ばいを見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	今期比
		(B)		(C)-(A)		(D)
全 県	▲ 22.5	▲ 19.4	▲ 21.6	0.9	▲ 16.3	5.3
県 北	▲ 38.7	▲ 20.5	▲ 34.1	4.6	▲ 6.8	27.3
県 央	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 11.1	8.9	▲ 15.8	-4.7
県 南	▲ 12.5	▲ 17.9	▲ 23.7	-11.2	▲ 23.7	0.0

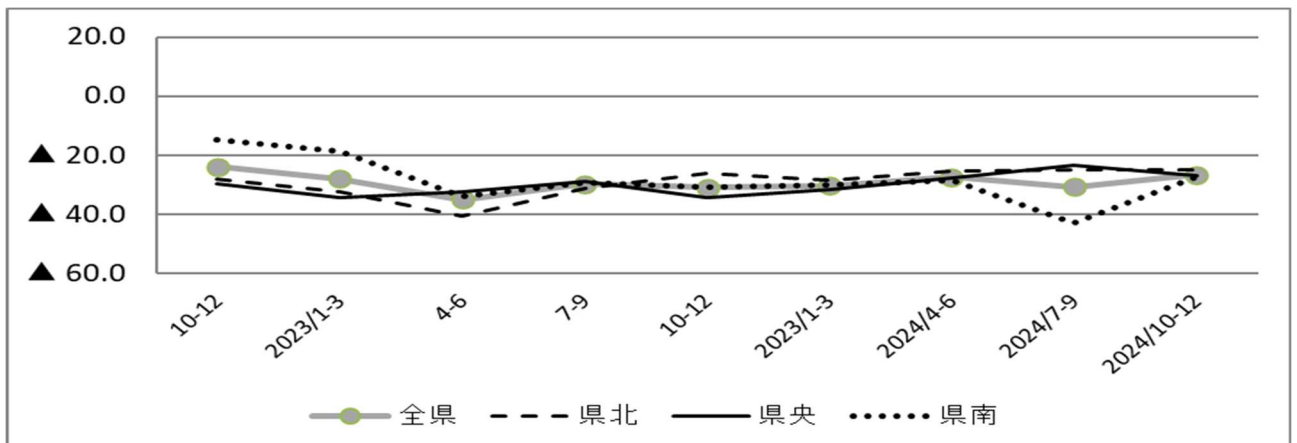


6. 従業員（含む臨時）

今期（10～12月）のDI値は、前期と比べ県央が従業員の不足感を拡大した一方、県南は大幅に不足感を縮小、
県北は横ばいであった。

来期の見通し（1～3月）は、今期と比べ県北が従業員の不足感の拡大を見通す一方、
県央は従業員の不足感の縮小、県南もわずかながら従業員の不足感の縮小を見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	今期比
		(B)		(C)-(A)		(D)
全 県	▲ 30.6	▲ 29.4	▲ 26.5	4.1	▲ 25.9	0.6
県 北	▲ 25.0	▲ 22.8	▲ 25.0	0.0	▲ 29.6	-4.6
県 央	▲ 23.4	▲ 23.4	▲ 26.9	-3.5	▲ 23.8	3.1
県 南	▲ 42.9	▲ 41.1	▲ 27.1	15.8	▲ 25.4	1.7



IV. 産業別設備投資

全産業における今期（10～12月）の設備投資については、「実施した」とする企業は、55件と前期と比べ3件減少となった。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業（17件）、次いで製造業とサービス業（11件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容の最も多かったのは、「車両・運搬具」（21件）、次いで「機械・設備・倉庫」「OA機器」（13件）の順となっている。

来期（1～3月）の計画では、全産業で「計画している」としたのは43件で、今期と比べ12件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、建設業（11件）、次いで卸売業とサービス業（10件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容の最も多かったのは「車両・運搬具」（20件）、次いで「機械・設備・倉庫」（10件）、「OA機器」（8件）の順となっている。

設備投資状況

(件数)

	前期(7-9月)				今期(10-12月)					
	実施した (A)	実施しない	来期見通(10~12月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期見通(1~3月)		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全産業	58	102	47	112	55	110	▲3	43	123	▲12
建設業	14	14	10	18	17	14	3	11	20	▲6
製造業	16	19	13	21	11	22	▲5	9	24	▲2
卸売業	8	24	7	25	8	23	0	10	21	2
小売業	8	25	4	29	8	27	0	3	32	▲5
サービス業	12	20	13	19	11	24	▲1	10	26	▲1

設備内容(複数回答)

(件数)

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	9	3	3	1	2	1	1	0	0	0	3	1
②建物・工場・店舗	11	6	3	2	2	0	1	2	1	1	4	1
③機械・設備・倉庫	13	10	2	0	8	6	0	0	1	0	2	4
④車両・運搬具	21	20	6	7	2	1	5	4	4	2	4	6
⑤付帯施設	5	6	1	1	1	0	2	2	0	1	1	2
⑥OA機器	13	8	6	3	0	1	2	3	2	0	3	1
⑦福利厚生施設	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
⑧その他	4	2	2	0	0	0	0	1	1	0	1	1
合計	77	56	23	14	15	9	11	12	9	4	19	17

V. 地域別設備投資

今期（10～12月）の設備投資について、「実施した」企業は、前期と比べ県北と県央が減少し、県南は増加した。

設備投資で最も多いのは、県北が「機械・設備・倉庫」（6件）、県央が「車両・運搬具」（13件）、県南が「土地」「建物・工場・店舗」「車両・運搬具」（5件）となった。

来期（1～3月）の設備投資について、「計画している」企業は、今期と比べ全地域で減少を見通している。

「計画している」企業の設備内容で最も多かったのは、県北が「機械・設備・倉庫」（4件）、県央が「車両・運搬具」（13件）、県南も「車両・運搬具」（5件）となっている。

設備投資状況

(件数)

	前期(7-9月)				今期(10-12月)					
	実施した (A)	実施しない	来期見通(10~12月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期見通(1~3月)		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全体	58	102	47	112	55	110	▲3	43	123	▲12
県北	14	30	8	35	11	33	▲3	9	35	▲2
県央	26	34	22	38	25	37	▲1	22	41	▲3
県南	18	38	17	39	19	40	1	12	47	▲7

設備内容（複数回答）

(件数)

	全県		県北		県央		県南	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	9	3	1	0	3	1	5	2
②建物・工場・店舗	11	6	2	1	4	3	5	2
③機械・設備・倉庫	13	10	6	4	3	4	4	2
④車両・運搬具	21	20	3	2	13	13	5	5
⑤付帯施設	5	6	0	1	4	5	1	0
⑥OA機器	13	8	1	0	9	4	3	4
⑦福利厚生施設	1	1	0	0	1	1	0	0
⑧その他	4	2	0	1	0	1	4	0
合計	77	56	13	9	37	32	27	15

VI. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、建設業とサービス業が「従業員の確保難」、製造業が「原材料価格の上昇」、卸売業が「仕入単価の上昇」、小売業が「消費者ニーズの変化への対応」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「下請単価の上昇」、製造業とサービス業が「人件費の増加」、卸売業が「仕入単価の上昇」、小売業が「需要の停滞」、建設業、卸売業、小売業が「従業員の確保難」、製造業が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、サービス業が「利用者ニーズの変化への対応」を問題点として挙げており、下請単価の上昇や人材確保、需要停滞、物価高騰による材料費などの仕入単価上昇の対応、利用者のニーズの変化に対する対応等が経営課題となっていることが窺える。

	1位		2位		3位	
建設業	従業員の確保難		下請単価の上昇		従業員の確保難	
	31.0%	9件	20.7%	6件	23.1%	6件
製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加		原材料費・人件費以外の経費の増加	
	38.7%	12件	30.0%	9件	26.9%	7件
卸売業	仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		従業員の確保難	
	32.3%	10件	33.3%	10件	19.2%	5件
小売業	消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞		従業員の確保難	
	17.6%	6件	22.9%	3件	15.6%	5件
サービス業	従業員の確保難		人件費の増加		利用者ニーズの変化への対応	
	22.6%	7件	19.4%	6件	15.4%	4件

※ %は1位、2位、3位それぞれの回答数(=100%)の割合を示したものの。

参考:1~3位を累計した場合

	1位		2位		3位	
建設業	従業員の確保難		材料価格の上昇		熟練技術者の確保難	
	19.0%	16件	16.7%	14件	15.5%	13件
製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加		原材料費・人件費以外の経費の増加	
	20.5%	18件	15.9%	14件	14.8%	13件
卸売業	仕入単価の上昇		需要の停滞		従業員の確保難	
	26.4%	23件	17.2%	15件	14.9%	13件
小売業	人件費以外の経費の増加		消費者ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇	
	13.9%	14件	12.9%	13件	11.6%	11件
サービス業	人件費の増加		従業員の確保難		利用者ニーズの変化への対応	
	15.6%	14件	14.4%	13件	13.3%	12件

※ %は1~3位までの総回答数(=100%)の割合を示したものの。

【付帯調査】

◎人材不足・確保・募集に係る調査

Ⅶ. 従業員の増減について ※（ ）内は 2023 年 10～12 月期調査時の割合

- ・従業員の増減について聞いたところ、回答のあった 166 社中、③「変化なし」が 90 社 54.2% (56.2%) と最も多かった。次いで④「減少した」が 34 社 20.5% (21.9%)、②「増加した」が 32 社 19.3% (16.5%) の順となり、前回調査時と比べ大きな変動は見られなかった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 大幅に増加した (5 人以上の増加)	4	2.4%	1.8%
② 増加した (1～4 人以下の増加)	32	19.3%	16.5%
③ 変化なし	90	54.2%	56.2%
④ 減少した (1～4 人以下の減少)	34	20.5%	21.9%
⑤ 大幅に減少した (5 人以下の減少)	6	3.6%	3.6%
合 計	166	100.0%	100.0%

Ⅷ. 採用活動の状況について ※（ ）は 2023 年 10～12 月期調査時の割合

- ・採用活動の状況について聞いたところ、②「採用が難しくなっている」が 57 件 34.3% (46.7%) と最も多く、次いで⑤「変わらない」が 31 件 18.7% (14.2%)、⑥「採用を行っていないのでわからない」が 30 件 18.1% (14.2%) の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 全く採用できていない	16	9.6%	11.8%
② 採用が難しくなっている	57	34.3%	46.7%
③ 十分採用できている	6	3.6%	3.6%
④ 比較的採用できている	26	15.7%	9.5%
⑤ 変わらない	31	18.7%	14.2%
⑥ 採用を行っていないのでわからない	30	18.1%	14.2%
合 計	166	100.0%	100.0%

Ⅸ. 人材募集の方法について (複数回答) ※（ ）は 2023 年 10～12 月調査時の割合

- ・人材募集の方法について聞いたところ、③「ハローワーク」が 130 社 78.3% (90.5%)、⑧「知人・友人等からの紹介 (縁故採用)」が 46 社 27.7% (29.6%)、⑪「高齢者の継続雇用」が 45 社 27.1% (29.6%) の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① ハローワーク	130	78.3%	90.5%
② 人材サービス会社 (民間の職業紹介機関)	22	13.3%	13.0%
③ 求人紙媒体 (就職情報誌、新聞折り込みチラシ等)	15	9.0%	17.2%
④ 求人 Web 媒体 (就職サイト等)	22	13.3%	18.9%

⑤ 自社のホームページへの掲載	37	23.3%	24.3%
⑥ ソーシャルリクルーティング（Facebook等SNS活用）	8	4.8%	5.3%
⑦ 会社説明会の開催・参加（合同説明会を含む）	38	22.9%	21.3%
⑧ 知人・友人等からの紹介（縁故採用）	46	27.7%	29.6%
⑨ 非正社員の正社員転換	3	1.8%	5.3%
⑩ 定年退職者の再雇用	38	22.9%	28.4%
⑪ 高齢者の継続雇用	45	27.1%	29.6%
⑫ その他	15	9.0%	1.8%

XI. 人材確保の課題や要望等について（自由記入）

<建設業>

- ・作業員の高齢化及び若年層の受け入れも難しいので苦勞している。来期は新卒の受け入れを考えている。（一般土木建築工事業）
- ・働き方や休日について課題がある（塗装工事業）
- ・生徒数の減少や進学率の増加により、採用は年々厳しくなっている。会社説明会（大手は除く）を数多く開催していただき、会社を学生に知って欲しい（一般電気工事業）
- ・新卒採用が厳しく、採用しても定着率が低い（総合建築工事業）

<製造業>

- ・新卒者を採用しても離職する人も多いので最近では中途採用を中心としている。Uターン者やAターン者の情報が欲しいところである（金属製品製造業）
- ・転職へのハードルが低くなってきており、特に若手の定着が課題となっている（機械器具製造）
- ・業種柄、若手人材の応募者がおらず、高齢化が進んでいる、新卒者は地元建設関係への就職者が多く、不定期採用では難しく、技術者の育成が難しくなっている（コンクリート製造）

<卸売業>

- ・中途採用の即戦力採用が難しい（野菜卸売業）
- ・畜産関係というだけで敬遠されてしまう。外国人採用のために動き始めている（鶏卵卸）

<小売業>

- ・1～2時間労働の求人について、スキマバイトを実施している。効率が良く、働いているみなさんは頑張ってくれている状況（婦人靴小売業）
- ・賃金を上げたいのはやまやまだが、業種や企業規模により自ずと条件は変わるので難しい。もちろん、企業努力は必要であると思う（茶類小売業）
- ・県内出身の学生が少なく採用人数に限られる（業界で採用数確保に向けいろいろ手をつけているが成果が出ない）（自動車小売業）

<サービス業>

- ・自動車整備士を紹介していただきたい（自動車一般整備業）
- ・依然として若い人の応募が少ないために、従業員の高齢化が進んでいる（ビルメンテナンス業）
- ・昔と違って零細企業で働いてくれる人材がほぼいない状態であり、どうしたらよいか分からない。大手求人会社に頼むと費用がかかりすぎてしまうのも問題である（食堂）
- ・サービス業全体的に採用が困難な状況にあるが、特に調理師不足が深刻である（冠婚葬祭式場）
- ・数年先を見据えた活動が必要である（交通運輸・サービス）

**秋田県内中小企業景況調査
全産業別景気判断比較表 (DI値)**
(第3四半期:2024年10月~12)

(▲マイナス)

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り						
	前期(7-9月)			今期(10-12月)			前期(7-9月)			今期(10-12月)			前期(7-9月)			今期(10-12月)			
	来期見通 (10~12月)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)
全産業	▲18.8	▲16.3	▲15.6	▲15.6	3.2	▲9.7	5.9	▲15.0	▲10.7	▲14.4	0.6	▲12.6	1.8	▲14.3	▲13.1	▲13.9	0.4	▲8.5	5.4
建設業	▲10.7	▲14.3	▲3.2	▲3.2	7.5	▲6.4	-3.2	▲14.3	▲17.9	▲12.9	1.4	▲9.7	3.2	0.0	▲3.5	▲6.4	-6.4	0.0	6.4
製造業	▲11.4	▲5.8	▲21.2	▲21.2	-9.8	▲6.1	15.1	▲11.5	2.9	▲15.2	-3.7	▲12.1	3.1	▲25.7	▲22.8	▲3.0	22.7	▲3.0	0.0
卸売業	▲21.8	▲21.8	▲22.6	▲22.6	-0.8	▲16.1	6.5	▲12.5	▲6.3	▲16.1	-3.6	▲16.1	0.0	▲12.5	▲9.4	▲22.6	-10.1	▲12.9	9.7
小売業	▲48.5	▲36.4	▲31.4	▲31.4	17.1	▲11.4	20.0	▲48.5	▲30.3	▲37.2	11.3	▲28.5	8.7	▲33.3	▲27.3	▲31.4	1.9	▲17.1	14.3
サービス業	0.0	▲3.1	0.0	0.0	0.0	▲8.4	-8.4	12.5	▲3.2	8.3	-4.2	2.8	-5.5	3.1	0.0	▲5.6	-8.7	▲8.3	-2.7

	受注残(未消化工事高)						採算(経常利益)						従業員(含む臨時)						
	前期(7-9月)			今期(10-12月)			前期(7-9月)			今期(10-12月)			前期(7-9月)			今期(10-12月)			
	来期見通 (10~12月)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)
全産業	▲19.1	▲16.1	▲14.0	▲14.0	5.1	▲9.4	4.6	▲22.5	▲19.4	▲21.6	0.9	▲16.3	5.3	▲30.6	▲29.4	▲26.5	4.1	▲25.9	0.6
建設業	▲21.4	▲14.8	▲16.1	▲16.1	5.3	▲9.7	6.4	▲10.7	▲7.1	▲9.6	1.1	▲22.6	-13.0	▲50.0	▲42.8	▲25.8	24.2	▲25.8	0.0
製造業	▲17.1	▲17.1	▲12.1	▲12.1	5.0	▲9.1	3.0	▲20.0	▲17.2	▲15.2	4.8	▲6.0	9.2	▲31.4	▲34.2	▲24.3	7.1	▲24.3	0.0
卸売業	—	—	—	—	—	—	—	▲18.8	▲12.5	▲22.5	-3.7	▲22.5	0.0	▲15.6	▲25.0	▲29.1	-13.5	▲32.3	-3.2
小売業	—	—	—	—	—	—	—	▲48.5	▲36.4	▲48.5	0.0	▲22.9	25.6	▲21.2	▲12.2	▲20.0	1.2	▲14.3	5.7
サービス業	—	—	—	—	—	—	—	▲12.5	▲21.8	▲11.2	1.3	▲8.4	2.8	▲37.5	▲34.3	▲33.3	4.2	▲33.3	0.0

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
:従業員「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（業種別比較表）

（第3四半期：2024年10月～12）

1. 今期の状況

業種	項目			業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
	実数	%	DI	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	21	98	47	37	68	61	10	123	33	9	37	18	26	78	62	8	106	52	8	106	52
	12.7	59.0	28.3	22.3	41.0	36.7	6.0	74.1	19.9	14.1	57.8	28.1	15.7	47.0	37.3	4.8	63.9	31.3	4.8	63.9	31.3
		▲ 15.6		▲ 14.4		▲ 13.9		▲ 14.0		▲ 21.6		▲ 26.5					▲ 26.5				
建設業	3	24	4	5	17	9	3	23	5	4	18	9	2	24	5	2	19	10	2	19	10
	9.7	77.4	12.9	16.1	54.8	29.0	9.7	74.2	16.1	12.9	58.1	29.0	6.5	77.4	16.1	6.5	61.3	32.3	6.5	61.3	32.3
		▲ 3.2		▲ 12.9		▲ 6.4		▲ 16.1		▲ 9.6		▲ 25.8					▲ 25.8				
製造業	4	18	11	7	14	12	2	28	3	5	19	9	8	12	13	1	23	9	1	23	9
	12.1	54.5	33.3	21.2	42.4	36.4	6.1	84.8	9.1	15.2	57.6	27.3	24.2	36.4	39.4	3.0	69.7	27.3	3.0	69.7	27.3
		▲ 21.2		▲ 15.2		▲ 3.0		▲ 12.1		▲ 15.2		▲ 24.3					▲ 24.3				
卸売業	4	16	11	7	12	12	1	22	8				6	12	13	1	20	10	1	20	10
	12.9	51.6	35.5	22.6	38.7	38.7	3.2	71.0	25.8				19.4	38.7	41.9	3.2	64.5	32.3	3.2	64.5	32.3
		▲ 22.6		▲ 16.1		▲ 22.6		▲ 31.4		▲ 22.5		▲ 29.1					▲ 29.1				
小売業	3	18	14	6	10	19	0	24	11				3	12	20	2	24	9	2	24	9
	8.6	51.4	40.0	17.1	28.6	54.3	0.0	68.6	31.4				8.6	34.3	57.1	5.7	68.6	25.7	5.7	68.6	25.7
		▲ 31.4		▲ 37.2		▲ 31.4		▲ 48.5		▲ 48.5		▲ 20.0					▲ 20.0				
サービス業	7	22	7	12	15	9	4	26	6				7	18	11	2	20	14	2	20	14
	19.4	61.1	19.4	33.3	41.7	25.0	11.1	72.2	16.7				19.4	50.0	30.6	5.6	55.6	38.9	5.6	55.6	38.9
		0.0		8.3		▲ 5.6		▲ 11.2		▲ 11.2		▲ 33.3					▲ 33.3				

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第3四半期:2024年10月～12)

2. 来期の見通し

業種	項目			業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	19	112	35	24	97	45	11	130	25	6	46	12	18	103	45	8	107	8	107	51
	%	11.4	67.5	21.1	14.5	58.4	27.1	6.6	78.3	15.1	9.4	71.9	18.8	10.8	62.0	27.1	4.8	64.5	4.8	64.5	30.7
	DI	▲ 9.7			▲ 12.6			▲ 8.5			▲ 9.4			▲ 16.3			▲ 25.9				
建設業	実数	3	23	5	5	18	8	2	27	2	4	20	7	1	22	8	2	19	2	19	10
	%	9.7	74.2	16.1	16.1	58.1	25.8	6.5	87.1	6.5	12.9	64.5	22.6	3.2	71.0	25.8	6.5	61.3	6.5	61.3	32.3
	DI	▲ 6.4			▲ 9.7			0.0			▲ 9.7			▲ 22.6			▲ 25.8				
製造業	実数	4	23	6	4	21	8	2	28	3	2	26	5	5	21	7	1	23	1	23	9
	%	12.1	69.7	18.2	12.1	63.6	24.2	6.1	84.8	9.1	6.1	78.8	15.2	15.2	63.6	21.2	3.0	69.7	3.0	69.7	27.3
	DI	▲ 6.1			▲ 12.1			▲ 3.0			▲ 9.1			▲ 6.0			▲ 24.3				
卸売業	実数	2	22	7	2	22	7	1	25	5				2	20	9	1	19	1	19	11
	%	6.5	71.0	22.6	6.5	71.0	22.6	3.2	80.6	16.1				6.5	64.5	29.0	3.2	61.3	3.2	61.3	35.5
	DI	▲ 16.1			▲ 16.1			▲ 12.9						▲ 22.5			▲ 32.3				
小売業	実数	3	25	7	3	19	13	1	27	7				2	23	10	2	26	2	26	7
	%	8.6	71.4	20.0	8.6	54.3	37.1	2.9	77.1	20.0				5.7	65.7	28.6	5.7	74.3	5.7	74.3	20.0
	DI	▲ 11.4			▲ 28.5			▲ 17.1						▲ 22.9			▲ 14.3				
サービス業	実数	7	19	10	10	17	9	5	23	8				8	17	11	2	20	2	20	14
	%	19.4	52.8	27.8	27.8	47.2	25.0	13.9	63.9	22.2				22.2	47.2	30.6	5.6	55.6	5.6	55.6	38.9
	DI	▲ 8.4			2.8			▲ 8.3						▲ 8.4			▲ 33.3				

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第3四半期：2024年10月～12）

1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	21	98	47	37	68	61	10	123	33	9	37	18	26	78	62	8	106	52
	%	12.7	59.0	28.3	22.3	41.0	36.7	6.0	74.1	19.9	14.1	57.8	28.1	15.7	47.0	37.3	4.8	63.9	31.3
	DI	▲	15.6		▲	14.4		▲	13.9		▲	14.0		▲	21.6		▲	26.5	
秋田	実数	12	36	15	20	21	22	5	47	11	5	14	5	13	30	20	3	40	20
	%	19.0	57.1	23.8	31.7	33.3	34.9	7.9	74.6	17.5	20.8	58.3	20.8	20.6	47.6	31.7	4.8	63.5	31.7
	DI	▲	4.8		▲	3.2		▲	9.6		0.0			▲	11.1		▲	26.9	
大館	実数	1	14	7	2	9	11	1	16	5	1	5	3	4	8	10	2	9	11
	%	4.5	63.6	31.8	9.1	40.9	50.0	4.5	72.7	22.7	11.1	55.6	33.3	18.2	36.4	45.5	9.1	40.9	50.0
	DI	▲	27.3		▲	40.9		▲	18.2		▲	22.2		▲	27.3		▲	40.9	
能代	実数	1	12	9	3	13	6	0	17	5	0	4	4	1	11	10	0	20	2
	%	4.5	54.5	40.9	13.6	59.1	27.3	0.0	77.3	22.7	0.0	50.0	50.0	4.5	50.0	45.5	0.0	90.9	9.1
	DI	▲	36.4		▲	13.7		▲	22.7		▲	50.0		▲	41.0		▲	9.1	
大曲	実数	3	11	5	4	8	7	1	13	5	2	4	1	4	10	5	2	9	8
	%	15.8	57.9	26.3	21.1	42.1	36.8	5.3	68.4	26.3	28.6	57.1	14.3	21.1	52.6	26.3	10.5	47.4	42.1
	DI	▲	10.5		▲	15.7		▲	21.0		14.3			▲	5.2		▲	31.6	
横手	実数	3	10	9	4	7	11	2	14	6	1	4	4	2	9	11	1	14	7
	%	13.6	45.5	40.9	18.2	31.8	50.0	9.1	63.6	27.3	11.1	44.4	44.4	9.1	40.9	50.0	4.5	63.6	31.8
	DI	▲	27.3		▲	31.8		▲	18.2		▲	33.3		▲	40.9		▲	27.3	
湯沢	実数	1	15	2	4	10	4	1	16	1	0	6	1	2	10	6	0	14	4
	%	5.6	83.3	11.1	22.2	55.6	22.2	5.6	88.9	5.6	0.0	85.7	14.3	11.1	55.6	33.3	0.0	77.8	22.2
	DI	▲	5.5		0.0			0.0			▲	14.3		▲	22.2		▲	22.2	

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第3四半期：2024年10月～12）

2. 来期の見通し

業種	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)			
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足	
全県	実数	19	112	35	24	97	45	11	130	25	6	46	12	18	103	45	8	107	51
	%	11.4	67.5	21.1	14.5	58.4	27.1	6.6	78.3	15.1	9.4	71.9	18.8	10.8	62.0	27.1	4.8	64.5	30.7
	DI	▲ 9.7			▲ 12.6			▲ 8.5			▲ 9.4			▲ 16.3			▲ 25.9		
秋田	実数	11	37	15	13	32	18	7	47	9	5	15	4	10	33	20	3	42	18
	%	17.5	58.7	23.8	20.6	50.8	28.6	11.1	74.6	14.3	20.8	62.5	16.7	15.9	52.4	31.7	4.8	66.7	28.6
	DI	▲ 6.3			▲ 8.0			▲ 3.2			4.1			▲ 15.8			▲ 23.8		
大館	実数	2	14	6	3	12	7	1	17	4	0	7	2	3	14	5	2	7	13
	%	9.1	63.6	27.3	13.6	54.5	31.8	4.5	77.3	18.2	0.0	77.8	22.2	13.6	63.6	22.7	9.1	31.8	59.1
	DI	▲ 18.2			▲ 18.2			▲ 13.7			▲ 22.2			▲ 9.1			▲ 50.0		
能代	実数	1	18	3	2	15	5	0	19	3	0	6	2	1	19	2	0	20	2
	%	4.5	81.8	13.6	9.1	68.2	22.7	0.0	86.4	13.6	0.0	75.0	25.0	4.5	86.4	9.1	0.0	90.9	9.1
	DI	▲ 9.1			▲ 13.6			▲ 13.6			▲ 25.0			▲ 4.6			▲ 9.1		
大曲	実数	3	13	3	1	12	6	1	14	4	1	5	1	3	11	5	2	9	8
	%	15.8	68.4	15.8	5.3	63.2	31.6	5.3	73.7	21.1	14.3	71.4	14.3	15.8	57.9	26.3	10.5	47.4	42.1
	DI	0.0			▲ 26.3			▲ 15.8			0.0			▲ 10.5			▲ 31.6		
横手	実数	2	15	5	3	14	5	1	17	4	0	6	3	1	14	7	1	15	6
	%	9.1	68.2	22.7	13.6	63.6	22.7	4.5	77.3	18.2	0.0	66.7	33.3	4.5	63.6	31.8	4.5	68.2	27.3
	DI	▲ 13.6			▲ 9.1			▲ 13.7			▲ 33.3			▲ 27.3			▲ 22.8		
湯沢	実数	0	15	3	2	12	4	1	16	1	0	7	0	0	12	6	0	14	4
	%	0.0	83.3	16.7	11.1	66.7	22.2	5.6	88.9	5.6	0.0	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	77.8	22.2
	DI	▲ 16.7			▲ 11.1			0.0			0.0			▲ 33.3			▲ 22.2		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

県内景況調査に対する各企業のコメント

I 今期の特徴（2024年10～12月）

1 県 央	
建設業	手持ち工事が減少して受注に向けて頑張ろうと思う【一般土木建築工事業】
建設業	昨年の水害復旧も落ち着いた【木造建築工事業】
建設業	工事が順調に進み、経費を抑えることができ、採算が取れた【土木工事業】
建設業	夏以降、発注の減少が見られた【塗装工事業】
建設業	特許工事が増加している【防水工事業】
建設業	元請けの工事単価上昇により、完成工事高も増加した【一般電気工事業】
製造業	秋の新製品とリニューアル製品が不振製品の売上減少をカバーしており、売上は前年+αで推移。チャネル別では業務用は店数の減少、消費者のスタイルの変化によりコロナ前には戻っていない、家庭用は依然として生活防衛意識が高いままである。輸出は二桁増で好調。米の高騰が著しく、採算の悪化が懸念される【清酒製造業】
製造業	スポット物は少ないが、安定していたと思う【印刷業】
製造業	12月に入って受注は若干回復したが、10～11月の受注が減少したため売上額は減少した【金属製品製造業】
小売業	物価高のため不景気。消費者の購買意欲が低下してきており、売上にマイナスの影響を与えた【靴小売業】
小売業	去年より卸売の売上が好調のようで、自社もその恩恵にあずかり好調であった。年末はやはり一番ものが動く時期である【茶類小売業】
小売業	商品の問題により、改良が先送りとなり新規受注可能が限定的となっていることから受注量が減少となり減収・減益となった【自動車小売業】
小売業	分散から集中に舵をを切り、店舗統合により採算を図った【化粧品小売業】
サービス業	経営を縮小していつているため全てにおいて落ちている【普通洗濯業】
サービス業	現状維持に努めることが精一杯であった【受託開発ソフトウェア業】
サービス業	金利上昇、最賃のUP、作業用品等仕入単価の値上がりのため、利益が十分に確保できていない【ビルメンテナンス業】
サービス業	売上は増加したものの、今春賃上げによる人件費増や燃油賃高止まり等により、採算は悪化した【一般乗用旅客自動車運送業】
サービス業	売上は値上げにより増加したものの、賞与の増加や突発的な機械の修繕により経常利益は悪化した【港湾運送業】

2 県 北	
製造業	消費者ニーズの変化が定着しつつある【清酒製造業】大館・(株)北鹿
小売業	収益が合わない取引先との関係を解消したため、若干ではあるが売上は減少【生花・造花販売】大館・花ドーム(株)
小売業	原料の高騰、エネルギーの高騰、賃上げとにより採算悪化。この状態はいつまで続くのだろうか、会社の体力が持たない【菓子製造販売】大館・(株)しんこや
小売業	気温がなかなか下がらず、冬物の売れ始めが遅かった【衣類販売】能代・ワークマン能代店
サービス業	売上額は前年比ほぼ同額であったが、材料費や燃料費の高騰で利益率は悪化、人手不足で人件費が下がり、採算は同額くらい。一人当たりの労働負担が増えている【食堂】大館・北秋倶楽部

3 県 南	
製造業	工程が遅れていた現場が本格稼働し、納入数量増加に伴い、売上及び採算が増加傾向となる【コンクリート製造】
卸売業	前半は低迷だが、後半は繁忙であった 【建設資材卸売】
卸売業	市況の低迷が大きい【雑貨卸売】
小売業	物価上昇の影響がじわじわと出てきていると感じる。（無駄な買い物が本当にできない状況）【菓子製造小売】
サービス業	社員数減少により、すべての予約を受付できない状況にある【冠婚葬祭式場】
サービス業	修理売上等の増加【交通運輸・サービス】
サービス業	受託（行政）の事業がなくなったため売上及び採算は減少した【広告代理店】

Ⅱ 来期の見通し（2024年10～12月）

1 県 央	
建設業	官公発注の工事が見込めないため、苦しい状況になる予想【一般土木建築工事業】
建設業	工事が予想以上に遅れ、それに伴って経費がかかり赤字が予想される【土木工事業】
建設業	今期同様であると見込まれる【塗装工事業】
建設業	工程通り稼働できれば、完成工事高・利益ともに増加が見込まれる【一般電気工事業】
製造業	売上は昨年並みが予想されるが、原料米価格高騰に加え、資材価格の再度の値上げにより採算のさらなる悪化が懸念される【清酒製造業】
製造業	新事業がスタートするので好転する見込み【印刷業】
製造業	今後は受注も横ばいから微増の予定【金属製品製造業】
卸売業	農家の減少に伴う数量減、また天候による高単価を見込む【野菜卸売業】
卸売業	積雪量が売上増減に影響してくると思われる【飲料卸売業】
卸売業	クマの出没により外出できなくなった子供が多く、近辺のお店が困っているところである【生花卸売業】
小売業	雪が降るとプラスに働くため、暖冬の昨年に比べ、多少プラスになると思われる【靴小売業】
小売業	例年、1～3月期は業績は良くない。耐え忍ぶしかないと思われる【茶類小売業】
小売業	商品改良の遅れの影響から、新規受注可能数が限定的になっており受注数が減少。前年同期間の販売台数を下回ることが予想されるため、減収・減益を見込む【自動車小売業】
小売業	今後店舗統合によりマンパワーが集約され、採算を好転する見込み【化粧品小売業】
サービス業	従業員の体調悪いことが多く、思うように仕事ができないため取引が止まってしまう【普通洗濯業】
サービス業	物価上昇が進行する中、見通しが立たない【受託開発ソフトウェア業】
サービス業	今期の状況が継続する見込み【一般乗用旅客自動車運送業】
サービス業	来年度の予算設備計画中により、詳細は不明である【港湾運送業】

2 県 北	
小売業	仕入原価を販売価格に転換はしているが、それに伴い消費者が離れてしまい、売上も減る見込みである【生花・造花販売】
サービス業	状況は改善されないだろうと思われる【食堂】

3 県 南	
製造業	冬期間に入り、休業となる現場もあり、出荷量は減少するが、前期と比べると増収・増益となる見込み【コンクリート製造】
卸売業	今期と同様と思われる【建設資材卸売】
卸売業	売上となる冬物の減少、働き方改革による来客数減少が見られる【工具、金具】
小売業	来期は繁忙期となるが、値上げの影響がどの程度出てくるのか読めない状況である【菓子製造小売】
サービス業	賃金、物価の上昇分を価格に反映しきれない状況【ホテル業】
サービス業	負債予算部門処理を進めているため、売上額が減少するが、利益確保につながっていく【冠婚葬祭式場】
サービス業	修理売上、車両販売等の増加【交通運輸・サービス】
サービス業	中小企業の苦しさが取引先に出てきている（資材高騰、人件費の高騰）【広告代理店】